

瀬尾和敬議会だより

《討議資料》

8月19日から、平成20年第3回定例会が始まりました。(9月26日まで)

任期最後の議会となりますが、今回は「原油価格等高騰対策緊急事業費」「ふるさと納税寄付金充当事業費」などが追加され、20年度の予算総額は、473億円余りとなりました。以下、補正予算の概要をお知らせいたします。

なお、今回は市長と教育長にこの4年間を総括して一般質問しました。(4～5P)



この任期最後の議会だよりをお届けします。

【張り切って？任期中最後の一般質問】

一般会計補正予算 10億5千万追加

20年度予算 総額473億円

これまで、「余程火急な事故が発生しない限り、年度内に補正予算は組まない」とされていましたが、今定例会では10億5千万円余りが計上され、20年度予算総額は約473億円となりました。

一般会計では①原油価格等緊急対策事業費に、1億9300万円、②ふるさと納税寄付金充当事業費に5000万円、③その他道路維持費等に8億円、が追加されたものです。

事業費や予算内訳については、次のページ以降に掲載します。

原油価格高騰により経営が圧迫されている、農林畜産漁業関係者に県下ではいち早く手を差し伸べようとする姿勢は評価できます。

セオ和敬後援会員随時募集中

電話 55-0485

E-mail seo@po5.synapse.ne.jp

補正予算の概要（主なもの）

①原油価格等高騰緊急対策事業費

（単位：千円）

課	事業名	予算額	事業概要
防災安全課	青色防犯パトロール隊活動費補助金	540	青色回転灯を使用した車両により自主的に活動する防犯パトロール団体の燃料費の補助を行おうとするもの。 補助金額 青パト1台につき 年額 9000円 月額 1000円 対象期間 20年10月～21年3月まで
農政課	施設園芸原油価格高騰緊急対策事業補助金	2,983	施設園芸(花卉、野菜、果樹)農家の支援。省エネ化の推進のための施設整備を実施。 二重被覆 22,397㎡ 三重被覆 2,136㎡ 4段サーモ 14台 排熱回収装置 1台
畜産課	和牛導入緊急対策事業補助金	7,000	和牛肥育農家の所得向上と経営安定対策。薩摩川内市産の子牛を肥育素牛として導入した農家に対して、1頭につき20,000円以内(上限10頭まで)補助を行う。
水産振興課	漁業原油価格高騰緊急対策事業補助金	1,780	唐浜・久見崎地区の重油タンク2基及びサービスタンクの修繕費補助。
〃	漁業用燃油価格助成事業補助金	7,000	甌島及び川内漁業協同組合に属する正組合員の漁業操業に係わるA重油の経費に対し、1㊦当たり5円以内の直接補助を行う。

②ふるさと納税寄付金充当事業

企画政策課	子どもまちづくり副教材作成事業	2,000	薩摩川内市基本条例制定を機に、子ども達のまちづくりへの積極的参加、郷土愛の育成を図るための副教材の作成
子育て支援課	街中子育て支援事業補助金	600	「かごしま子育て支援パスポート事業」の協賛店で、ベビー用具等を店内設置する際に助成する。
子育て支援課	児童クラブ設立支援補助金	400	新規に児童クラブを運営しようとして計画している運営委員会に対して補助を行う。
子育て支援課	児童クラブ活動支援事業	100	近隣校区からの児童の受け入れ可能な児童クラブに対して、運送費の一部助成をする。
市民健康課	カンガルー事業～いのちを育む性教育～	498	思春期の子ども達が「性」について正しく理解できるように、助産師等が小中学校を訪問し性教育を実施する。
市民スポーツ課	スポーツ競技大会開催運営補助金	1,500	本市で開催されるジュニアを対象としたスポーツ大会に補助金を交付する。 5大会×300千円

③その他

観光課	遊具施設整備事業	14,000	寺山公園、藺牟田池の遊具整備。
建設維持	道路維持修繕事業	205,118	市内全域の道路維持費など。
教育総務	学校耐震化事業	48,000	10校27棟分。
高齢・障害福祉課	特別老人ホーム甌島敬老園空調設備整備事業	74,000	甌島敬老園の施設設備の充実を図る。
畜産課	肉豚生産性効率化事業補助金	200,000	県経済連の事業に対して、市が受け皿となって国から受け取る予算。

一般質問質疑応答の概要

私にとって任期最後の一般質問であり、また、森市長は引退を表明され、教育長も新しい市長に指名されなければ任務を解かれるわけで、今回の一般質問は「将来の展望」を問うことは責任をお互い持てないことから、「この4年間の総括」「今後への期待」に着眼をおいて質問しました。

質問1. 森市長へ

薩摩川内市誕生以来、一体感醸成に取り組んでこられたが、成果をどう自己評価されるか。また、課題は何か。

【質問の背景】

自分自身、合併問題で慎重派と推進派の拮抗する祁答院地域から選出された議員であるが、合併したからには「地域から中央に向けて光を放つ」ことを理念に議員活動を続けてきたつもりだ。市長としても、平成14年から合併協議を経て、16年、県下のトップを切って誕生した薩摩川内市の市政を担ってこられたが、行財政改革は進められたものの、一体感醸成はしっくりこなかった感がある。

【回答】

一体感醸成を図るべく、「ふれあい市民会議」「女性50人委員会」「市政モニター制度」「各種パブリックコメント制度」などを採用してきた。また、市民運動会、綱引き大会、春夏秋冬事業などを行い交流を図ってきたが、異なった歴史・文化・伝統を有する1市4町4村の一体感醸成が十分に果たせたかという点、疑問があり、自分自身の力不足であったと言わざるを得ない。

一体感醸成は一朝一夕に達成できるものではないが、新市長、新議会の下に鋭意取り組んでいかれるよう期待する。

質問2. 向原教育長へ

薩摩川内市誕生以来、取り組んでこられた教育行政の成果をどう評価されるか。また、今後の課題は何か。

【質問の背景】

これまで毎回のように教育行政について質問してきたが、教育の充実が「良い地域を作り、良いまちを作り、良い国を作る」という自分自身の教育理念がある。小中一貫教育は何としても成就しなければならない。

【回答】

異なった風土・教育環境に育った子ども達の一体感を図るべく、本土と甌島間の児童生徒の交流活動や、カヌー大会、綱引き大会などを行ってきた。それぞれの学校で企画した「薩摩川内元気塾」も児童生徒の将来に向けた意欲喚起には効果があったと思っている。中学生の英語検定参加にも鋭意取り組み、今年度は、98%を超える生徒が参加した。

平成18年度から始めた小中一貫教育も、3地区のモデル試行を経て、21年度から全市的に取り組むことになった。県下でいち早く取り入れた「小中一貫教育」であり、何としても成就したい。

《一般質問こぼれ話》

前回は質問の最後に「民の想ひ乗せて船漕ぐかの君は力余して櫓を置かむとす」と森市長に歌を披露しましたが、今回は用意していませんでした。しかし、同僚議員が「いよいよ最後だから一首献上すべき」と言うので、登壇する前に自席で即興で歌を作り、結びに披露しました。

残る者も 去る者もあらむ 議事堂に
秋の漂ふ 今日さやけく

森市長の引退、議員の引退者、立候補しても議事堂に来れなくなる場合などを考えて詠みました。「さやけく＝清々しく」は当を得ていないかも知れませんが、議場内でささやかに拍手が起こりました。

委員会での 質疑応答

◎9月3日、企画経済委員会が開かれました。委員会で質疑応答した議案の一部は以下の通りです。

○薩摩川内市特産品コンクールについて

去る8月27日に開催し、16団体36品目が出品。上位6品目は今後各種イベントや東京で開催される商談会に参加できる。

○原油価格等高騰緊急対策事業(漁業組合に対する1割5円補助)について

【問い】漁業組合の正組合員の中に、水揚げ高を100%組合に申告せず、相対取引をして水揚げ高の不明な者がいるという情報がある。

【答え】漁業組合への手数料5～7%を支払わない方法として、相対取引をしているという情報はあるが、市としては具体的に踏み込んでいない。補助金の活用については漁業組合の中で検討してもらえないのが実情だ。

四年間を

振り返って

平成の合併として、県下のトップを切って薩摩川内市が誕生して、間もなく四年が経過します。全国の市町村約三、三〇〇が平成の合併により一、七〇〇、約半分に留まったことを考えると、薩摩川内市の一市四町四村の合併は突出した大合併であったと言えるでしょう。それも、全国でも珍しい海を隔てた合併であります。



合併後、私が最初に訴えたのは、個性ある歴史・文化・伝統・産業を有している地域の「一体感醸成をどうするか」でありました。これなくして市の発展はあり得ないと思ったからです。結果的に薩摩川内市としては一体感醸成を図る努力はしながらも、先ず、「財政再建団体」に陥ることを避けるために、行財政改革に突き進むことになりました。指定管理者制度の導入や職員の定数適正化、補助金制度の見直しなど功を奏して、合併時の市債（借金）を四年間で約百億円減らすことに成功しました。ただ、合併協議で申し合わせがあったとは言え、敬老祝い金の大幅削減、自治会補助金の年次の削減などは、残念な思いでありました。行財政改革を推進する余り、住民サービスの低下があつてはなりません。今後は、住民サービスの一環として、過疎対策が大きな課題として浮かび上がってきました。

私はその課題を解決するために

人が輝き

地域が輝き

まちが輝く

を掲げました。

「人が輝く」とは、将来を担う子ども達や地域興しグループの育成を図り、子育て環境の整備や福祉の充実を図ることです。

また、「地域が輝く」とは、自治会や地区コミュニティ協議会、過疎地域の活性化、商工農林漁業の活性化及び特産品の販路拡大などを指すことです。

「まちが輝く」とは、市民の一体感醸成を図りながら、職・遊・住の快適空間を作り、企業誘致による雇用の拡大、観光行政推進による経済浮揚を狙います。

この四年間を振り返り、更なる薩摩川内市発展のために尽力します。変わらぬご指導をよろしく願います。

瀬尾和敬